愛しすぎて／詩人の妻（1994）

TOM & VIV

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 イギリス
色彩 Color
時間 125分
初公開日 1995/05/27
公開情報 ギャガ・コミュニケーションズ

【解説】

２０世紀英国詩壇を代表する、米国生まれの詩人Ｔ・Ｓ・エリオットとその狂気の妻（有名な詩集『荒地』の題は彼女の考案という）の永年にわたる愛憎の葛藤を綴る、いささかヘヴィな作品。先天的な要因もあり、時に見境のない行動を起こす妻ヴィヴィアン（初夜にメンスとなり狂乱する場面は凄まじい）にほとほと手を焼くエリオット。彼女の父がこの結婚に断固反対したのも、娘のそんな危うい傾向をひた隠しにしておきたかったからだ（しかし、文学者であるエリオットなら、その苦悩も推し量るだろうと母は早くから賛成する。彼に娘を託す旨の言葉を申し添えて）。そして、彼への盲愛から起こす妻の奇癖（秘書にすら嫉妬して、事務所の郵便受けに溶かしたチョコレートを流し込むシーンは圧巻）にひたすら耐えるエリオットだったが、日増しに荒れていくヴィヴィアンの姿を、海外から帰国して久方振りに見ておののいた弟の助言もあって、いよいよ精神病院に送ることにするが、彼はその行いを恥じ、そして忘れようとし、一度も妻を見舞わない。だが、妻はいつも夫の迎えを待ちわび、彼を悪く言う者を許さなかった……。オスカー候補となった妻役のリチャードソンは熱演は確かだが、力みすぎで役の心情を伝えきれず、最後の夫の冷酷な仕打ちも、表面的な演出で真意を掴みかねる。エキセントリックな対象を描くには、もっと細心のデリカシーが必要なはずだ。

【クレジット】

監督	ブライアン・ギルバート	Brian Gilbert
製作	マーク・サミュエルソン	Marc Samuelson
	ハーヴェイ・カース	Harvey Kass
	ピーター・サミュエルソン	Peter Samuelson
原作	マイケル・ヘイスティングス	Michael Hastings
脚本	マイケル・ヘイスティングス	Michael Hastings
	エイドリアン・ホッジス	Adrian Hodges
撮影	マーティン・フューラー	Martin Fuhrer
音楽	デビー・ワイズマン	Debbie Wiseman
出演	ウィレム・デフォー	Willem Dafoe
	ミランダ・リチャードソン	Miranda Richardson
	ローズマリー・ハリス	Rosemary Harris
	ティム・ダットン	Tim Dutton
	ニコラス・グレイス	Nickolas Grace
	ジェフリー・ベイルドン	Geoffrey Bayldon
	ジョアンナ・マッカラム	Joanna McCallum
	フィリップ・ロック	Philip Locke
	マイケル・アトウェル	Michael Attwell

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.